

修士論文（要旨）
2013年1月

小・中学校国語教科書に見るオノマトペと日本語教育

指導 宮副ウォン裕子 教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
210 J 3901
岡谷英夫

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	先行研究	4
第3章	調査概要	9
第4章	調査結果および調査結果の分析	11
4.1.1	小学校国語教科書におけるオノマトペの数量	11
4.1.2	小学校学習指導要領におけるオノマトペについての記載	14
4.1.3	小学校学習指導要領解説書におけるオノマトペについての記載	14
4.1.4	小学校国語教科書におけるオノマトペの学習項目	16
4.2.1	中学校国語教科書におけるオノマトペの数量	27
4.2.2	中学校学習指導要領におけるオノマトペについての記載	30
4.2.3	中学校学習指導要領解説書におけるオノマトペについての記載	31
4.2.4	中学校国語教科書におけるオノマトペの学習項目	31
4.3.1	小中学校全国語教科書におけるオノマトペの数量	34
第5章	考察	38
5.1	日本語教育のためのオノマトペの原案	38
5.2	初級から学習するオノマトペの提案	41
5.3	先行研究者が提案した基本的オノマトペとの比較	46
5.4	学習項目に関する考察	49
第6章	まとめと今後の課題	50
6.1	まとめ	50
6.2	今後の課題	50

参考文献

添付資料

【キーワード：オノマトペ 小学校国語教科書 中学校国語教科書 日本語教育】

要旨

本研究は、日本語学習者にとって習得困難とされるオノマトペが、義務教育である小中学校の最新の国語教科書ではどのように取り扱われているのかを調査し、日本語教育への応用を考察することを目的とする。

これまで小中学校の国語教科書のオノマトペを調査したものは、小野他（1999）が光村図書出版株式会社の小学校1年生から6年生の国語教科書から、擬音語・擬態語の使用実態を分析したもの以外は、稿者が調査した限りでは見られなかった。

『新版日本語教育事典』（2005）では「日本語の語彙の特色」の一つとして擬音語・擬態語が取り上げられている。筧（1986）は、文学や表現言語でオノマトペの使用がなければ、その魅力を失っていただろうと、オノマトペの魅力について述べている。

天沼（1974）は、日本語学習者にとってオノマトペは分かりやすい言葉でもなく、自由に使える言葉ではないと述べ、オノマトペの習得の困難さについて述べている。また、陳（2007）は日本語の特色の一つであるオノマトペは、日本語学習者にとっては難題であるとし、オノマトペは日本語学習者にとって習得困難な言語項目の一つとして挙げている。

また、田守（2008：70）はオノマトペには、「臨時的に用いられるその場限りのもの」と「言語体系に組み込まれて、語彙として定着しているもの」があり、前者を規則性が低い「非慣習的なオノマトペ」、後者を一定の規則性がある「慣習的なオノマトペ」と述べている。このような、非慣習的なオノマトペと慣習的なオノマトペの存在が、日本語学習者にとっては習得困難な一因と考えられる。

一方、安居（1986）は中学校一年生を対象にオノマトペの語彙指導を行った。その結果、母語話者児童においてもオノマトペのうち擬態語の習得が不十分であると分析した。

玉村（1989）は、国立国語研究所報告 78『日本語教育のための基本語彙調査』（1984）から最重要語 18 語、重要語 42 語、合計 60 語を日本語教育において扱われるべきオノマトペとした。また、三上（2007）は、日本語教育における基本語彙を選定した八種の文献について、どのようなオノマトペがいくつぐらい選定されているかを調査し、70 語を「基本オノマトペ」の試案として提示した。

日本語学習者にとって習得困難とされるオノマトペであるが、日本語母語話者児童が使用している、5 社から出版されている最新の小中学校国語教科書においては、どのようなオノマトペがどの程度出現しているのかを調査し、併せてオノマトペの学習項目を調査した。また、国は、国語科の学習指導要領及び学習指導要領解説書でオノマトペの学習をどのように指導するのかを調査した。

その結果、小中学校全教科書中のオノマトペの異なり語数は 1,109 語、延べ語数は 9,311 語であった。語彙調査ではよく使われる語は数が少なく、あまり使われない語は数が多いとの先行研究（真田 1977）がある。本稿においても同様の結果を示した。

前述の調査結果を受け、高頻度のオノマトペから、93 語を選定し「初級から指導する基本オノマトペ」として提案したい。この見出し語 93 語は全見出し語 1,109 語の 8.38%であり、見出し語 93 語の延べ語数 5,463 語は、全延べ語数 9,311 語の 58.67%にあたる。

10%弱である 93 語のオノマトペを学習することにより、出現するオノマトペの約 60%

が習得できることになる。

さらに、93語それぞれの相関係数を算出した。正及び負の相関関係、相関関係の高低により、どの級から指導すべきかの目安となり、教育実践上の有益な情報として役立つと考えられる。

本稿ではオノマトペの数量を調査したが、それは「語の形」だけであり「意味」は考慮していない。多義のオノマトペは、意味ごとの頻度と併せて、類義語も指導できる副教材の作成が急務である。また、清濁音のオノマトペをセットで指導できる副教材の作成も学習者のオノマトペの理解を促し、適切な運用能力の養成に役立つと考える。このようなオノマトペの「質」の研究を今後の課題とする。

主要参考文献

- 秋元美晴 (2007) 「日本語教育におけるオノマトペの位置づけ」『日本語学』 Vol.26 明治書院
- 秋元美晴 (2010) 『日本語教育能力検定試験に合格するための 語彙 12』アルク
- 天沼寧 (1974) 「擬音語・擬態語について」『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版
- 泉邦寿 (1976) 「擬声語・擬態語の特質」『日本語講座 4 日本語の語彙と表現』大修館書店
- 小野米一、王婉莹、スーザン・ジェビット、田原佳世、張海蓉 (1999) 「小学校国語教科書に見る擬音語・擬態語」『鳴門教育大学研究紀要』人文・社会科学編第 14 巻
- 甲斐睦朗 (1990) 「語彙指導」『講座 日本語と日本語教育 (7) 日本語の語彙・意味 (下)』明治書院
- 寛壽雄 (1986) 「“変身”するオノマトペ」『日本語学』 Vol.5 明治書院
- 金田一春彦 (1978) 「擬音語・擬態語概説」『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 木村睦子 (1982) 「語彙の計量」『講座日本語の語彙』明治書院
- 坂口昌子 (1995) 「教科書にみえるオノマトペ」『国文 研究と教育』18 号 奈良教育大学国文学会
- 真田信治 (1977) 「基本語彙・基礎語彙」『岩波講座 日本語 9 語彙と意味』岩波書店
- 玉村文郎 (1989) 「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』68 号日本語教育学会
- 田守育啓 (2008) 「オノマトペの体系性」『國文學』53(14) 學燈社
- 陳志文 (2007) 「日本語教育におけるオノマトペの提出順序についての一提案—「2005 年現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」の考察から—」『2007 年度 財団法人交流協会日台交流センター 日台研究支援事業報告書』
http://www.koryu.or.jp/08_03_03_01_middle.nsf/2c11a7a88aa171b449256798000a5805/4735f9b8af9fd9574925768700194d0d?OpenDocument (2012.10.26)
- 田由子 (2003) 「述語との関係からみた擬態語」桜美林大学大学院修士論文
- 中里理子 (2008) 「擬音語・擬態語の名称変遷について」『上越教育大学研究紀要』第 27 巻
- 日本語教育学会 (1990) 『日本語教育ハンドブック』大修館書店
- 彭飛 (2007) 「ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴」『日本語学』 Vol.26 明治書院
- 三上京子 (2007) 「日本語教材とオノマトペ」『日本語学』 Vol.26 明治書院
- 安居總子 (1986) 「子どもたちの擬音語擬態語」『日本語学』 Vol.5 明治書院

辞典

- 浅野鶴子 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』角川書店
- 日本語教育学会 (2005) 『新版日本語教育事典』大修館書店
- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版
- 山口仲美 (2003) 『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』講談社